

都市環境工学の発展に対する貢献

名譽会員：尾島俊雄 君 [早稲田大学名誉教授・(社)都市環境エネルギー協会理事長・職藝学院学院長]

選定理由

尾島俊雄君は、1960年に早稲田大学第一理工学部建築学科を卒業後、同大学院に進み、1965年早稲田大学専任講師、1969年同助教授、1974年同教授に就任し、現在も研究、教育に取り組んでいる。この間、2000年から2002年には、早稲田大学理工学部長を務めている。

同君は、建築やエネルギー消費が都市環境に重大な影響を及ぼし得ることを1960年代に予想して以来、建築・都市におけるエネルギー使用実態の調査、都市環境の予測・実測に関する研究から、都市環境と調和させるための建築、エネルギーシステム等の開発にかかわる研究と実践を一貫して進めてきた。その成果は、数多くの研究論文に発表され、万国博覧会等の国際的事業における環境・エネルギー計画プロジェクトとして実践に移され、社会に提示されてきたばかりでなく折々に市民向けの単行本等として社会に広く発信され、都市環境に関する市民的関心の高揚に多大な貢献を果たしてきた。

都市環境に対する同君の姿勢は、都市における人間的な生活の保証という福祉的視点に裏打ちされたものである点も特筆される。都市環境対策として提示してきた手法やプロジェクトには、1960年代以来、普及に尽力してきた地域冷暖房等のいわゆる都市設備の整備や、都市における水面等の自然的要素の積極活用、地震時の都市機能の持続など、建築・都市の価値の確保と都市環境への負担抑制の両立を目指すものが多く認められる。これらの研究や実践の成果は、「日本万国博覧会基幹施設のレイアウト」に対して1969年度日本建築学会日本万国博特別賞（業績）、「空気調和設備の熱負荷特性とその経済性に関する研究」に対して1972年度日本建築学会賞（論文）をはじめ、「EXPO'70の地域冷暖房設計」に対して空気調和・衛生工学会賞、「ヒートアイランド現象研究」により2005年度環境省環境安全功労者表彰、「都市環境の解析・制御に関する実証的研究とその設計・都市政策への応用」により、2007年、早稲田大学より大隈学術記念賞を授与されている。

さらに、同種の課題は、日本のみならず、アジアの大都市に共通するとの認識から、1979年から80年にかけて中国浙江大学の教壇に立って以来、中国をはじめとするアジア諸地域での人材育成と国際交流に尽力してきた。同君のこの面の顕著な活動により、浙江大学、同濟大学、吉林建築大学等から顧問教授・名誉教授等の称号を受けている。

同君は、上記のように建築・都市にかかわる活発な研究教育活動を続ける一方、日本建築学会においては、環境工学委員会委員長をはじめ、評議員6期、アジア建築交流委員会委員長、建築教育委員会委員長、英文論文集委員会チーフエディター等を務め、さらに、副会長、会長として、建築学会全体の発展に尽力してきた。また、日本学術会議第18期・19期会員、第20期連携会員としても、広く学際的な場で建築・都市の重要性をアピールし、特に学術会議第

144回総会では、学術会議としては約6年ぶりの勸告として決議された「大都市における地震災害時の安全の確保について」を起草するなど、建築・都市分野における政策課題を積極的に提示している。

以上、都市環境工学における学術の発展と実践における同君の功績は、教育者として、この分野で数多くの研究者、専門家、実務家を育成してきたこととあわせて、真に顕著である。

よって、ここに日本建築学会大賞を贈るものである。

受賞所感

「都市環境工学の発展に対する貢献」で日本建築学会より2008年大賞を受賞することになり、心より御礼申し上げます。

1970年に「日本万国博覧会基幹施設のレイアウト」で日本万国博特別賞（業績）、1972年「空気調和設備の熱負荷特性に関する研究」で論文賞を受賞したのは助教授になったところで、やっと一人前の研究者と認められた。1974年に教授になって都市環境工学専修を創設したのは、単体としての建築だけでなく、群としての建築を考えねばならなくなってきたからで、建築を内側からだけでなく外側から眺める必要性を感じたからである。

大阪の日本万国博の設計では美しい千里の竹林を伐採した環境破壊者と糾弾された。そこで巨大な都市を一気にパターン認識する方法として、人工衛星からのリモートセンシングで熱汚染を認識する方法を研究した。これも社会のニーズからきたものといえる。

建築に「強」「用」「美」があるなら、都市は安全で、健康で、利便性がある、しかも美しくなければならない。1975年「熱くなる大都市」（NHKブックス）でヒートアイランド問題を、1984年「絵になる都市づくり」（NHKブックス）で「美」を、1996年「安心できる都市」（早大出版部）では都市の「強」を書いた。2005年には日本学術会議から「大都市の安全」についての勸告と「大都市の生活の質」についての声明を出すことができた。地球人口の増大のすべてがアジアの大都市人口で占められていることを考えれば、「都市環境工学」の研究はこれからが本番で、2008年、早大の最終講義でも「未完のプロジェクト」として『都市環境学へ』（鹿島出版会）を出版したが、今度の受賞で一段と勇気づけられている。

おじま・としお

1937年生まれ／早稲田大学卒業／同大学院博士課程修了／建築環境工学／工学博士／設計に「バルセロナ・オリンピック施設環境設計」「完全リサイクル型住宅ⅣⅢ（木造・鉄骨造・ハイブリッド）」／著書に「ヒートアイランド」ほか／1969年度日本建築学会日本万国博特別賞（業績）、1970年空気調和・衛生工学会論文賞、「空気調和設備の熱負荷特性とその経済性に関する研究」で1972年度日本建築学会論文賞、2007年大隈学術記念賞受賞はか

